

御指導いただいた講師の先生方

玉川大学 教育学部 教授	坂野 慎二 様
日本大学 経済学部 教授	山森 光陽 様
東京都教育委員会義務教育指導課 統括指導主事	播磨 靖文 様
大田区教育委員会事務局指導課 統括指導主事	秋山 亮 様
大田区教育委員会事務局指導課 統括指導主事	折田 和宙 様
大田区教育委員会事務局指導課 指導主事	遠藤 健太 様
大田区教育委員会事務局指導課 指導主事	江袋 勇樹 様
大田区教育委員会事務局指導課 指導主事	村松 千恵子 様
大田区教育委員会事務局指導課 指導主事	原口 慧史 様

御協力いただいた授業パートナーの皆様

キネマ通り商店街元会長	柳町 忠 様
大森麦わら細工の会 代表	藤塚 悦司 様
蒲南茶荘 常務取締役	鈴木 和貴 様
八百文	高木 知幸 様
メンズヘアサロン ロダン	源 旨宣 様
上州屋紙店	川田 久子 様
大田区立郷土博物館 学芸員	小室 綾 様
和歌山県みなべ町 うめ課課長	平 喜之 様
和歌山県みなべ町 うめ課副課長	下浦 智久 様

令和6・7年度 東京都教育委員会 小学校教科担任制等推進校 (小規模校におけるモデル校)

令和6・7年度 大田区教育委員会 教育研究推進校

令和6年度 大田区教育委員会 独自教科新設に向けた研究実践校

未来を切り拓く力の育成 ～教科担任制を生かして～

もち味を生かして挑戦すること できタネ♪いいネ♪を増やそう

研究1年目のまとめ

研究方法の一つ、7回の授業研究では、指導の手だてによりもち味を生かして挑戦する姿が多く見られた。研究方法のもう一つ、児童を対象とした質問紙調査による実態把握及び検証では、6項目のうち4項目で増加が見られたが2項目で減少が見られ、これを次年度への課題とする。研究仮説の検証に向けて、研究2年目も追究していく。

祝 東蒲小学校
開校65周年



◎ 未来を切り拓く子ども
と 友達を大切にする子ども
う 運動で体をきたえる子ども
ほ 本気で学ぶ子ども
ふ よく聞き話せる子ども



おわりに

大田区立東蒲小学校 副校長 滝澤 智

第4期教育振興基本計画であるおおた教育ビジョン（令和6～10年度）の一丁目一番地に「笑顔とあたたかさあふれる未来を創り出す力を育てます」があります。本校の研究は、その理念を具現化することが目的です。「おおたの未来づくり」科の目標は、創造的な資質・能力の育成です。本校では創造的な資質・能力を「未来を切り拓く力」と定義し、目指すことも像を「もち味を生かして挑戦すること」としました。研究の手だては、昨年度までの研究を生かして、目標の明確化、導入の工夫、掲示物の工夫、ICT等の活用、個別最適な学びと協働的な学び、振り返りの充実などです。

また、目指すべき創造的な資質・能力の素地である3つの柱「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」のうち、学校の教育目標や本校児童の実態、研究主題に照らして、本校では「学びに向かう力、人間性等」に焦点化しました。そして、創造的な資質・能力の素地を系統的に指導するための系統表とオリジナルの研究キャラクターを開発しました。

さらに、今年度から第5・6学年で教科担任制を取り入れ、教科の専門性を生かした質の高い授業を行い、多面的・多角的な児童理解の促進を図り、複数の教員で学級を見守ることによる学級の安定化を図る取組を生かして本研究を推進しました。

最後に、研究の効果検証は、全学年・専科による年7回の授業研究と7月と12月の児童アンケート結果で行いました。次年度も同じ項目の児童アンケートを7月と12月に実施し、児童の姿の変容を継続して観察・分析していきます。

はじめに

大田区立東蒲小学校長 鈴木 裕二

本校ではこの一年間で、研究全体会14回・授業研究7回を行い、研究を推進してきました。研究を中心に、児童の「未来を切り拓く力」を育成することを目指しながらも、同時に自己肯定感の向上、学力向上を図るとともに、教員の授業力、指導力、同僚性の向上、働き方改革の推進、更には地域との連携などを一体的に進めています。全てはつながっています。

また、今年度OJT主任を新設し、教員全員が1人1回以上講師となり自分の得意なことを伝授するOJTを30回、デジタル学習基盤を生かした新しい授業スタイルなどのICT研修を8回、職員夕会でOff-JTや他校の研究発表会の還元研修を数えきれないほど実施するなど校内研修にも力を入れてきました。校内研究と校内研修を車の両輪に見立て、児童と教員の学びは相形という考えで、児童も教員も試行錯誤しながら共に学び続けています。私は、「ピンチはチャンス」、「失敗してもいいからやってみよう」、「挑戦なくして成長なし」という言葉を機会あるごとに直接、児童と教員の両方へ伝えてきました。

論を組み立て、常に研究を導いた研究主任をはじめ、熱心に研究に取り組んだ本校の教職員を誇りに思います。これから研究は、年間続きます。ぜひ、本校の研究にご注目ください。そして、次年度の研究発表会を楽しみにしていただきたいと思います。

結びに、懇切丁寧に御指導いただきました講師の先生方、御協力いただいた授業パートナーの皆様、研究の機会を与えてくださいました東京都教育委員会及び大田区教育委員会に心より感謝申し上げます。

本研究に携わった教職員

令和6年度

☆研究主任

1年1組 関澤 英昭	1年2組 福岡 悠花
3年1組 林 蓉子	3年2組 西田恵美菜
5年1組 安江 航平☆	6年1組 田中 久貴
算数少人数 小倉 宏美	理科 和田 光生
サポートルーム 山田 隆一	サポートルーム 山崎 智里
講師 佐藤まなみ	講師 梅田まり子
スクールカウンセラー 井上 七海	副校長アシスタント 吉田 規雄
読書学習司書 寺田 早苗	学校特別支援員 丸山 純礼
A L T Natalie Threymng Jonjaroenlarp	
用務 栗野 普輝	用務 田澤 隆則

副校長 滝澤 智	2年2組 小早川湧万
2年1組 海堀 志織	4年2組 鶴木 祥
4年1組 井出恵美子	図工 黒川 明花
音楽 小林奈津子	家庭 中野 美枝
養護 島田早津樹	特別支援教室専門員 中野 美枝
サポートルーム 廣木 璃星	学校栄養士 小俣日向子
事務主事 酒井和功0子	学校事務補助員 小柴 君代
教員支援員 アミール喜代子	理科支援員 佐竹美由紀
登校支援員 酒井 愛子	
A L T Nicole Derick Fernandes	
用務 高橋 眸	

毎日更新しています。
ホームページ見てね！



令和7年3月25日

とうほ
大田区立東蒲小学校



〒144-0031

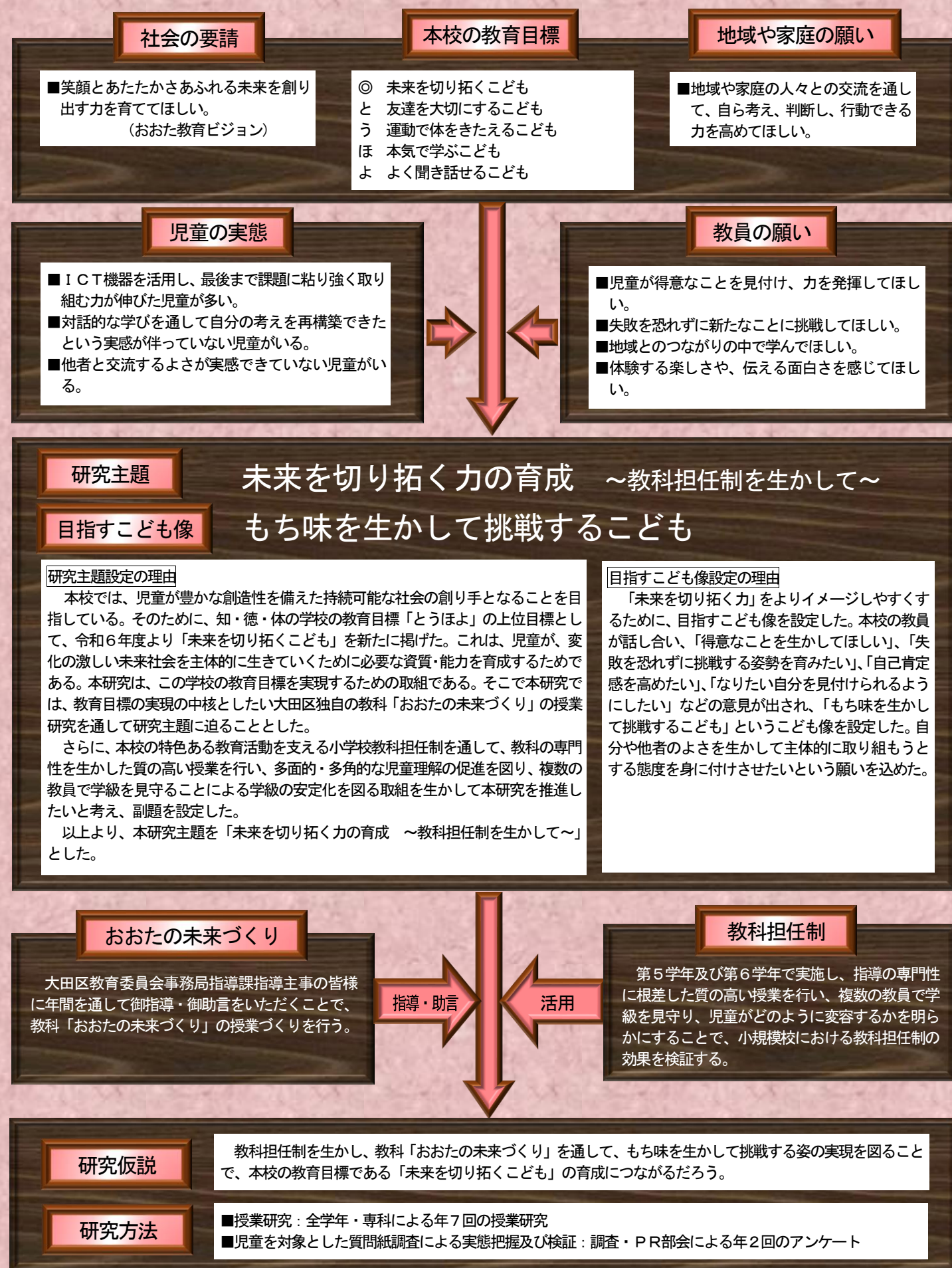
大田区東蒲田一丁目19番25号

TEL 03-3732-9635

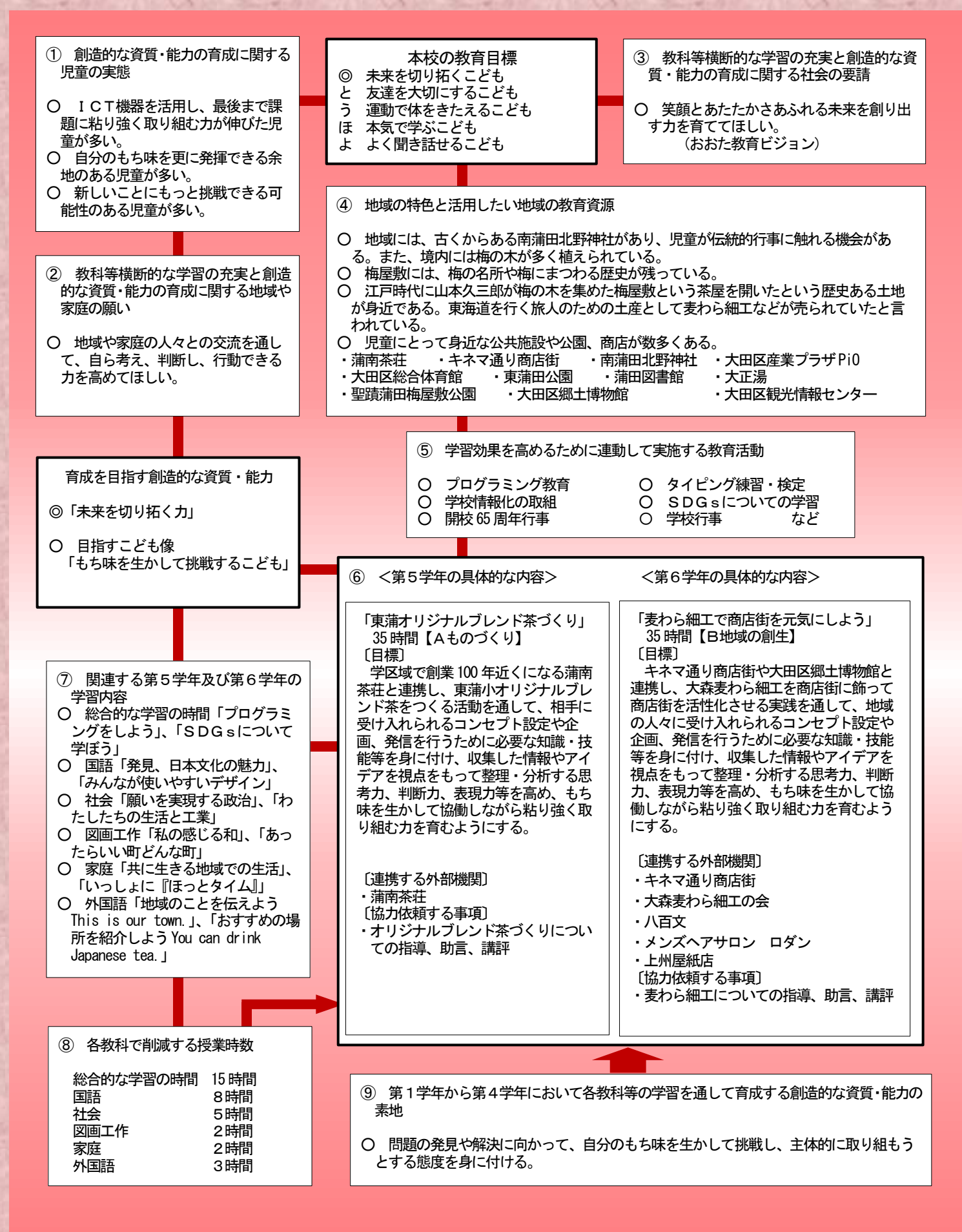
<https://www.ota-school.ed.jp/touho-es/>



研究構想図



おおたの未来づくり全体計画





研究経過（おおたの未来づくり編）

このページは、
右から左へ読んでね



高学
年のみ
の取組
になりが
ち……。

東蒲小
オリジナル

学校全体の取組にしたい

「おおたの未来づくり」が
高学年のみなので、全校の
教育活動の中で意識するの
が、難しいです。ね。

学校の教育目標を見直しました

知・徳・体の学校の教育目
標「どうほよ」の上位目標と
して、令和六年度より「未来
を切り拓くこと」を新たに
掲げました。

学校全体で共有できました

児童が、変化の激しい未来社
会を主体的に生きていくために
必要な資質・能力を育成する
という目標を、児童や教員保護
者、地域が共有することができ
ました。迷ったら教育目標に立
ち戻るようにしました。

学校の教育目標
◎未来を切り拓くことも
友誼を大切にするこども
運動で体をきたえるこども
本気で学ぶこども
よく聞き話せるこども

令和六年度当初に上位
目標に掲げた学校の教育
目標です。創造的な資
質・能力の素地の育成を
含めて、全校で取り組んで
いくことを示しました。

第1～第
4学年は、何
をすればよい
のかなあ
……。

東蒲小
オリジナル

どの創造的な資質・能力の素地を育成するか

各学年・専科に委ねるの
ではなく、重点的に育成する
地を全校で統一することに
しました。

学びに向かう力、人間性等に焦点化

年度当初の研究全体会に
て、「目指すこども像」と共
に検討して決めました。

よさやもち味を生かして主体的
に取り組もうとする態度の育成

自己や他者のよさやもち
味を認め合って試行錯誤す
る学習場面を大切にすると
方向性が見えてきました。



各学年がバラバラ
の創造的な資質・能力
の素地を育成するこ
とができませんでした。

育成を目指
す創造的な資
質・能力を「未
来を切り拓く
力」としたが、
やや抽象的で
イメージしづ
らいよう……。

東蒲小
オリジナル

育成を目指す創造的な資質・能力を具体化するには

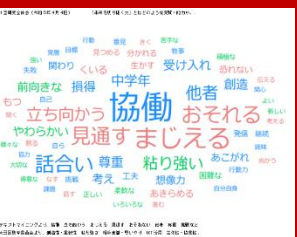
年度当初の研究全体会にて、
「目指すこども像」について全
教員で話し合いました。

こどもの姿でイメージしました

「もち味を生かして挑戦
するこども」という「目指す
こども像」を設定しました。

キーワードが明らかに

目指すこども像を設定した
ことで、自他の「よさやもち
味を生かす」、「挑戦」、「粘り強
さ」といったキーワードが明ら
かになり、研究の方向性が少
ずつ見えてきました。



目指すこども像の検
討段階では、児童の実
態を踏まえた教員の願
いを出し合いました。

素地を育成
する上で、低
学年はどのこ
ども像が分か
らないよ
……。

東蒲小
オリジナル

創造的な資質・能力の素地を第四学年までに育成するには

素地の育成は第一、四学
年の四年間をかけて行いま
す。低学年の指導目標の目安
が、とよいという声がありま
した。

系統表を開発しました

系統的な指導を実現する
目安として、児童の具体的
な姿を表にまとめました。
(13ページ参照)

研究推進部が目安を示しました

授業学年任せにするのでは
なく、全校で素地の系統性
を踏まえて指導に当たりま
した。

項目	1	2	3	4	5
1. 自己や他者のよさやもち味を認め合って試行錯誤する学習場面を大切にすると方向性が見えてきました。					
2. 年度当初の研究全体会にて、「目指すこども像」と共に検討して決めました。					
3. 各学年がバラバラの創造的な資質・能力の素地を育成することができませんでした。					
4. 育成を目指す創造的な資質・能力を「未来を切り拓く力」としたが、やや抽象的でイメージしづらいよう……。					
5. 年度当初の研究全体会にて、「目指すこども像」について全校で話し合いました。					
6. 「目指すこども像」という「目指すこども像」を設定しました。					
7. キーワードが明らかに。					
8. 目指すこども像の検討段階では、児童の実態を踏まえた教員の願いを出し合いました。					
9. 素地を育成する上で、低学年はどのこども像が分からないよ……。					
10. 創造的な資質・能力の素地を第四学年までに育成するには。					
11. 系統的な指導を実現する目安として、児童の具体的な姿を表にまとめました。(13ページ参照)					
12. 研究推進部が目安を示しました。					
13. 授業学年任せにするのではなく、全校で素地の系統性を踏まえて指導に当たりました。					
14. 創造的な資質・能力の指導の目安を階段状のドットで表すことで、系統性の視覚化を図りました。					

創造的な資質・能力
の指導の目安を階段
状のドットで表すこ
とで、系統性の視覚
化を図りました。

「自分や他
者のよさやも
ち味を生かす
こと」をどうや
って全校の児
童に伝えられ
ばよいかなあ
……。

東蒲小
オリジナル

目指すところを児童にどうやって伝えるか

第一学年から第六学年まで
に伝えられるためには、分か
りやすさが大切だと考えまし
た。

合言葉をつくりました

本校の目指すこども像を
達成するための合言葉を
つくりました。「できタネ」
「いいネ」は、自他のよさや
もち味を見付ける合言葉で
す。

「できタネ」「いいネ」を増やそう

「できタネ」という種を学
級にたくさんまきましよう。
「いいネ」という根が学級に根
付くと、学級全員が成長でき
ます。」と児童に伝えました。



全教室にポスターを掲示

答えのない
課題に対して、
創造と探究を
していくのは、
児童が難しい
と感じやすい
……。

東蒲小
オリジナル

前向きな挑戦をどう実現していくか

始業式や全校朝会の校長
講話で児童を励ますメッセ
ージを送りました。

合言葉で伝えました

「挑戦なくして成長な
し」「もち味を生かす」と
いった合言葉を児童に向け
て繰り返し発信しました。

失敗を恐れずに挑戦しよう

おおたの未来づくりは、答
えのない課題に挑戦する学習
です。答えが分からず、見通
しをもてないと、児童は自信
をもちにくくなります。そこ
で、挑戦を前向きに捉える合
言葉が必要でした。

答えが出なくて活動
が停滞しそうときに、
この合言葉が活躍し
ました。

児童と教員
の学びは相似
形です。児童
も教員も、共
に学び続けて
います。



合言葉をつ
くった後、浸透
させるために、
まずは教員が
たくさん使いた
いけれど……。

東蒲小
オリジナル

合言葉をどうやって浸透させるか

どんな場面でも使えばよい
かを教員が理解していない
浸透させられないので、指導
した。

キャラクターの開発

図工専科の力で、成長の
種が芽吹くイメージと、学
級に互いのよさを認め合
う雰囲気根付くイメ
ージを擬人化しました。

「できタネ」「いいネ」

それぞれに三段階の成長過
程を設けたことで、「よくで
きた」「できた」、もう少し
きた、学習を振り返る際に活用
できるようになりました。



特別支援教室の様子
です。めあてが達成でき
たとき、素敵な言動があ
ったときに、黒板にたく
さん貼っていきました。

授業パート
ナーとの打合
せと出会いを
どうしよう
……。

東蒲小
オリジナル

打合せと出会いを丁寧に

一学期はオリエンテーショ
ンと打合せに充て、授業パ
ートナーの所に担任が訪れま
した。二学期の始めは、訪れま
しり依頼を受けるのではなく、
出会いを大切にしました。

まず大切にしたのは知る、体験すること

主体的に学習に取り組
む態度を育てるために、興
味をもつことや、楽しい学
習にすることを大切に
しました。

その後のやりとりはメールも活用
対面の交流は大切ですが、
日程の調整が必要で頻繁に
は行えません。アドバースを
求める質問や、進捗状況の報
告など、やりとりの回数が必要
な場面ではメールや電話が
有効でした。



授業パートナーの
御厚意で複数回の
直接交流を行う機
会を設定しました。



研究経過（教科担任制編）

このページは、
右から左へ読んでね



腎筋群を鍛えるシングルレックルーマニアンデッドリフトをみんなでやっています。体幹部の筋力は、フォームの安定につながります。

最大限、教員のもち味を生かす

限られた人的・物的資源を最大限活用するカリキュラム・マネジメントを行いました。第五・六年生の体育専科が授業で持久走を行いました。体育専科が授業で持久走を行いました。体育専科が授業で持久走を行いました。

適材適所に配置する
校務分掌を考えました
中学校籍の部活動指導経験のある理科専科と、筋トレが趣味で運動が得意な新規採用教員を体育的行事委員会の駅伝担当に配置しました。

小規模校だから、そもそも教員数が少ない
第五・六年生対象だから、これまでは第五・六年生担任が指導がかわってしまいましたが、指導がかわってしまいがちで、組織的に力を入れられないと悩みました。

小学生駅伝大会に向けて、どうやって取り組んでいこうかな...

東浦小オリジナル



似た悩みを抱えていることを聞いて、少し安心。研究推進校同士で、連帯感が生まれました。自校で工夫している点を情報交換しました。

似た悩みを抱えていることを共有しました
今年度は教科担任をしていない学年の教員も、次年度以降を見据えて自分ごととして研修を受けました。前向きに取り組む意識が高まりました。文部科学省は教科担任制を中・小学へ拡大することを四月に発表しました。

合同研修会を
中富小学校と実施
同じく小規模モデル推進校である大田区立中富小の先生方に呼び掛けて、六月に東浦小にて合同研修会を実施しました。率直に言い合い、話し合うことで同僚性が高まり、連帯感が生まれました。

どうすればよいのか？ 分からない悩み
悩みを共有しようにも、教科担任制をしていない学年の担任しているのかと悩みました。

誰かが悩みを聞いて。大変さを分かってくれ。今までできなかったこと。他校ではどうやっているの？
理科専科が兼務している2校で協力したよ。

東浦小オリジナル

持ち時数の変化

	R5	R6
6年	24	17
5年	24	17
4年	24	23
3年	23	19
2年	21	21
1年	20	20

R5年度までの専科は音楽図工
R6年度から新しく専科を配置
理 科:加配 第3・5・6学年
家庭科:区時間講師 第5・6学年
外国語:都時間講師 第3～6学年

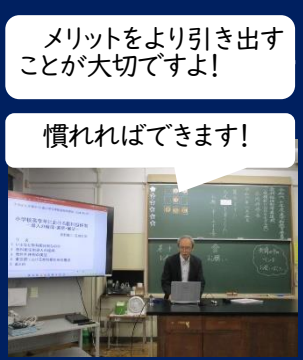
場合によっては複数年度で調整を
単年度でなく、複数年度で必要と御指導をいただきまし。中学校では、校務分掌で前の年と比べると、前年度の調整を必要と御指導をいただきまし。

他の校務分掌でバランスをとります
全てを均等にはできないので、校務分掌を含めてトータルで考えていくことが大切だと御指導をいただきました。

持ち時数に不公平感？
例えば、週当たりの持ち時数を比較すると、第五・六年生の担任は「17」で、第四学年の担任は「23」となり、第四学年の担任は「23」となり、第四学年の担任は「23」となり。

担当教科によって持ち時数が違う.....

東浦小オリジナル



玉川大学 坂野 慎二 教授

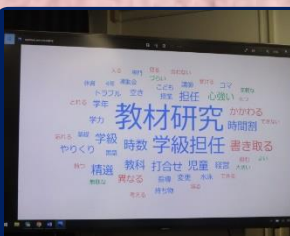
中学校ではできているので小学校でもできます
担当教科等の時間に加えて、朝や帰りの会、給食の時間も活用しました。確かに、二学期は一学期よりも教員が慣れてきました。学級の全てを担当が調整するのは、副担任、教科担任のみなさんで見守る意識をもつと、担任の気持ちも少し軽くなります。

中学校ではそれが普通だと考えました
玉川大学 坂野 慎二 教授からいただいた言葉です。「もともと教科担任制の中学校ではどうしてけるか」という視点にたくさん助けられました。

時間が足りなくて学級経営が十分にできない
従前と比べて、学級の児童と向き合う時間が減り、さみしさを感ずるようになりました。指導の欠陥、連絡の共有、生活の微かなルールの違いなど、学級生活に多岐にわたる悩みを感じることが多くなりました。

慣れていないから大変... やることが多過ぎ！ 時間が少な過ぎ！

東浦小オリジナル



テキストマイニング

今後、小規模校での教科担任制の効果を更に検討する必要があります。

児童は教員よりも早く順応しました
アンケートを実施したところ、いろいろな教員と授業を行うことのよさを感じる児童が多くなりました。そういえば、児童は四月からこの制度に慣れていた。

児童のために
最終的に児童のためになるかどうかを判断基準にするかどうかが大切だと学びました。確実に児童の満足度は高いです。さらに、保護者・地域の関心も高いです。

授業の質の向上？ 児童理解の深化？ 働き方改革？
苦労して新しい働き方に適応しても、果たして意味のある取組になっているのかと疑問に思うことがありました。

本当に効果的な取組になっているのかな？

東浦小オリジナル

先生が授業楽しい！と思うのなら、児童も楽しいはず。
学年を超えて同一教科を指導する場合は、教科の系統性を高めると自分の成長にプラスになります。

担当する教科が減り、教科の専門性を高めることができます
自分の学級・学年以外もその教科を担当することで、責任が生まれます。教科の専門性を高め、質の高い授業を児童へ提供します。一つ一つの教科を深めれば、他教科も深まり、授業がうまくなります。

小規模校なので、それが当たり前です
単学級の場合は同じ内容の授業ができないのは仕方ないこと。教科を絞り、その教科のプロフェッショナルを目指します。

小規模校なので、同じ授業ができない
単学級は、教科担任制のメリットである同じ内容の授業のメリ。数回行うことで、教材研究を繰り返すことができ、授業改善の恩恵に預かることができます。

第5・6学年が単学級なので、同じ授業は一度もないよ！

東浦小オリジナル



東京都教育委員会と山森教授による訪問指導

先進校では、「授業が楽しい。」と肯定的な児童の声。教科担任制っていいのかもしれない!!

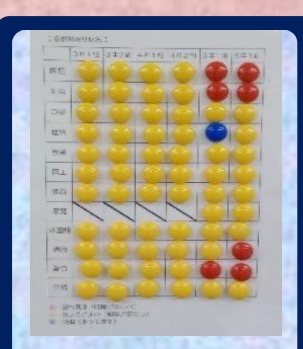
深い思考ができる授業を！
「既習事項と結び付け、結び付けた知識のまとまりをもたせ、概念を形成させる。児童はどのようにならざるを得ないのか、教科の「見方・考え方」を働かせる。それが教科の専門性を高めることになる。」

同じ授業をやるから楽
日本大学 山森光陽教授から「教科担任制で同じ授業をするとしても、クラスが3つあれば内容は同じでもアプローチが違うし、雰囲気が変わることもある。」と教えていただきました。

教科担任制でどんな授業を目指せばいい？
教科担任制で教科の専門性を高め、どういった授業をすればいいのかわからないという意見がありました。

どんな授業をすればいいの？

東浦小オリジナル



教員室にボードを設置

学期の後半で調整する意識をもちました
教科担任同士で、ボードを見ながら、学期の後半に調整する場を設けて相談し合いました。

各教科進度状況のボードを活用
区内先進校の取組を参考に、①余剰時間②調整の必要なし③時間が欲しいの3色のマグネットを掲示しました。

授業の進度が遅れた
運動会の練習や、水泳の特定の曜日時間帯に、授業進捗が遅れが生じやすくて困ることがありました。

思ったように学習を進められない...

東浦小オリジナル